

ね、この本よんだ？



2024年度



図書館で発行している『としょかん通信』でご案内した
「あたらしい子どもの本」のリストです。

絵本、読みもの、テーマ本の三つの柱にわかれた
ブックガイドとなっています。

紹介した本は、図書館で貸出ご利用いただけます。

このリストが、子どもたち、そして大人のみなさんにとっても
素敵な本との出会いのきっかけになりますように。



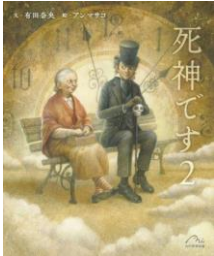
久留米市立中央図書館



えほん(日本)

『死神です 2』

有田 奈央／文
アン マサコ／絵
光村教育図書



満月の美しいある夜。突然、おばあさんの前に、死神があらわれました。「あなたの命は残り少ないのです」と告げられ、死神にやり残したことを語ります。そして次の日ー。あたたかいタッチの描写にいやされ、死と向き合い、生きることを考えるシリーズ絵本第2作。

『あわあわジャングル』

片平 直樹／作
高畠 那生／絵
ひさかたチャイルド



おふろがきらいなぼくにお父さんは言った。「あわあわジャングルに招待してあげよう」
おふろのドアを開けると、そこは泡でできたジャングルになっていた！
泡でできたくるまに乗って、お父さんとあわあわジャングルをドライブ。
うさぎやことり、サルたち、みーんな泡でできている。ところが、泡でできたヒョウがぼくたちを襲ってきて...
高畠那生さんのポップな絵で描かれた、毎日のおふろが楽しくなる一冊です。

『くじらのいるこみち』

塩野 米松／作
はたこうしろう／絵
ひさかたチャイルド



ゆかちゃんが引っ越してきた新しい家の前は、土の道。そこでゆかちゃんは土の道を大事にしているへたさんに出会います。花が咲き、ちょうが舞う土の道に、雨が降り、みずたまりができました。へたさんからみずたまりを一つもらって「これはわたしのおいけよ！」と大喜び。自然を愛するへたさんとゆかちゃんの楽しい日々を描きます。

『このほしのこども』

吉田 尚令／作
あかね書房



毎日のようにニュースでうつしだされる世界の戦争の様子。おなじ空の下で、たくさんのこどもたちが眠れない夜をすごしています。おいしいごはんをたべて、あそんで、まなんで、かぞくでいっしょにねむりたい。そんなあたりまえの毎日にむかって、みんなであきらめずにすすもう。作者の願いが込められた現代の平和絵本です。

えほん(海外)

『ねえねえ、なに見てる?』

ビクター・ベルモント／文と絵

金原瑞人／訳

河出書房新社



トーマスはほかの人と色の見え方がちがうといわれるけど、自分ではちがいがわかりません。ほかの人たちには、どんなふうにもわかって見えているのかな? トーマスの家族11人と1匹が、食事の時間に同じテーブルをそれぞれの目線で見てみたら... みんながいっしょに見ているテーブルは、実は全然同じじゃないらしい。わたしたちはみんな「目に見えないメガネ」をかけていた! 多様性をたのしく理解できる絵本です。

『いやっ! といえないノニ』

ヘザー・ハート=サスマン／ぶん

ジュヌヴィエーヴ・コテ／え

くまがいじゅんこ／やく

サイエンティスト社



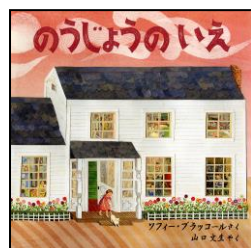
ノニにはひとつだけできないことがあります。それは「いやっ!」と言うことです。ちいさい頃は誰にも気にせずいやなことは「いやっ!」と言えていたのに。心の中ではいやだと思うときも、つい「いいよ」と言ってしまう。友達のお願ひも断れず、だんだんとお願ひはエスカレートしていつてしまい...。自分の気持ちを表に出せないこどもに寄り添いながら、ときには主張することの大切さを教えてくれる絵本です。

『のうじょうのいえ』

ソフィー・ブラッコール／さく

山口 文生／やく

評論社



おかのむこうのきらめく川のほとりに、一軒の家が建っています。そこで12人の子どもが生まれ、育ち、巣立っていった。……農場の跡地の持ち主になった画家のブラッコールさんは、くずれかけた農家を壊してしまう前に、壁紙や家具の切れはし、残されていた新聞、ポスター、洋服、カーテンの生地などを拾い、ここに住んでいた人たちの生活を再現したのが、この本です。家はなくなっても、家の歴史や住んでいた人たちの思いはずっと生きつづけていく、というメッセージがこころにひびきます。丁寧に描きこまれた色彩豊かな絵は、見るたびに新しい発見があります。何度でも眺めたい絵本です。

『きみならだいじょうぶ!』

コリ・ドーフェルド／作

石津 ちひろ／訳

光村教育図書



小さな男の子ライリーが紙ひこうきを作って飛ばそうとすると、「ストップ!」とワシが大きな声をあげた。ワシは「その紙ひこうきじゃぜったいに飛ばないぞ!」と、うまく飛ばせるようアドバイスをしてくれました。そのあともオウムやハヤブサたちが次々にやってきて、それぞれアドバイスをしてくれます。鳥たちのアドバイスに素直に従っていたライリーでしたが...。誰かを応援する素晴らしさを感じるこころの絵本です。

読みもの

『あいたくてたまらない ももいろの貝とやどかりぼうやのお話』 おくやまゆか／作 音館書店



およぐのがこわいそうた君。
ある夜、おじいちゃんからもらった
ももいろの貝がらから波の音といっ
しょに「シクシク」と小さな声が聞こ
えてきます。おどろいたそうた君が
貝をほうりなげると、なんと、ももい
ろの貝がとつぜんしゃべりだしたの
です！話を聞いてみると、貝のな
かから聞こえてくる声はとおい海に
いるやどかりぼうやのもので、貝と
はなればなれになってしまっ泣
いているんだそうです。話を聞いた
そうた君はぼくが海へもどしてあげ
るよと約束しますが…
小学校低学年から。夏にぴったり
なおはなしです！

『6年3組さらばです』 吉野 万理子／作 丹地 陽子／絵 静山社



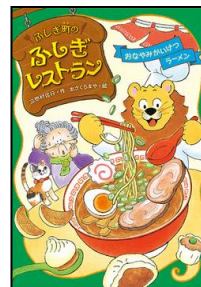
来年の3月で、波島第一小学校
は閉校になる。理由は海に近す
ぎるから。グラウンドの向こうは松
林で砂浜だ。地球温暖化の影響
でだんだん砂浜が狭くなっている。
6年3組に通う子どもたちも3月で
小学校にさらば、小学生だった自
分にさらば。自分たちが卒業した
ら思い出のある学校がなくなって
しまう6年生15人のお話を集め
た短編集です。

『山の学校 キツネのとしよいいん』 葦原 かも／さく 高橋 和枝／え 講談社



山のふもとにある小さな小学校の
図書館に、司書のかえでさんはつ
とめています。ある日、きつねの子
どものリンくんが窓からやってきて、
本のバーコードをよみとる「ピッ」を
やってみたいと、かえでさんにお願
いします。そこで、かえでさんは、リ
ンくん図書館委員をおねがいし
ようと思いつき…。かえでさんと子ども
たちときつねのリン君の心温まるお
話。図書館に行きたくなりますよ。

『ふしぎ町のふしぎレストラン おなやみかいけつラーメン』 三田村信行／作 あさくらまや／絵 あかね書房



まよなかにひらくふしぎなレストラ
ン「ふしぎ事」には3つのメニュー
があります。そのなかの一つ、「お
なやみ解決メニュー」を注文する
ためにおばあさんが大あわてで
やってきました。おばあさんが注
文したのは「金庫の暗証番号をお
もいだすメニュー」でした。それな
のに、メニューからうかびあがっ
てきた料理はからっぽのどんぶりだ
けです。おばあさんのおなやみは
解決できるでしょうか？

テーマ本

『絵画をみる、 絵画をなおす保存修復の世界』 田口 かおり／著 偕成社



絵や彫刻をなおすってどういうこと？
この本は、修復家の田口かおりさんが「修復家」の仕事の面白さについて紹介しています。美術作品が生まれたときのすがたをさぐりながら、さまざまな秘密をときあかし、これからのかたちを考える“保存修復の世界”を案内してくれます。布、絵の具、板や紙など「生きて呼吸している」素材でできている作品を保存する道は、ひとつではないことを教えてくれる一冊です。

『ゆかいな魚たち』 福井 歩／写真・文 少年写真新聞社



カメラマンならではのタイミングで、泳いでいる魚たちの可愛らしい動きや表情を捉えた写真集。写真は全て生きた魚で、ユニークで愛らしく、さまざまな表情を見せてくれます。身近な海でこんな魚が泳いでいるんだ！という発見につながります。わかりやすい言葉で魚の説明をつけています。魚のいろいろな表情をお楽しみください。

『ときめくニッポン職人図鑑』 大牧 圭吾／著 オークラ出版



食品サンプル職人、ひな人形職人、薩摩ボタン職人。何年もかけて身につけた技を使い、たくさんの人を感動させる工芸品をつくり出す職人。この本はそんな職人さん31人にインタビューし、大切にしていること、スゴ技の秘密、思い出などを紹介しています。特に職人さんそれぞれの「大好きな一品」の紹介はおすすめです！
この本を通じて、すてきな工芸品を作っているたくさんの職人さんに出会えるかも・・・？

『伝えよう！和の文化 お茶のひみつ③ お茶をたのしもう』

国土社編集部／編集
国土社



お茶はおいしいのどをうるおしてくれただけではなく、気持ちを和ませてくれます。せん茶や玉露、ほうじ茶など、さまざまな茶葉で、温かいお茶から冷たいお茶までのおいしいいれ方を紹介します。丁寧に茶をいれると、ティータイムがさらに楽しくなりますよ。また、お茶を使ったお菓子や、お茶を使ったあざやかなグリーンのおムレツのような意外なお料理のレシピも紹介します。

